

令和4年度 実態把握調査票(自由記述)のまとめ

自由記述の記入数(率)・・・252件(13.2%)

内訳・・・保育所(園)及び認定こども園171件、幼稚園54件、児童発達支援事業所15件、保健センター9件、障害児等療育支援事業3件

～記入内容抜粋～

※左端のかっこで囲まれた数字は年齢

【保育所(園)及び認定こども園】

- (0) 母への支援が必要。病院のやりとり、母から聞くだけでは正確さに欠ける
- ・自分の中でルールを決めると変更することが難しい(外に出ると右手に雑草をもつ。牛乳は園では飲まない。
- (1) 名前を呼ばれると手をあげず拍手する) ・簡単な生活の見通しをもつことが難しく友達への興味もない。 ・発語が「だー」「やー」「たー」の3つのみ。
- (1) 状況を判断し行動している。保育園でも絵カードを使用し保育しています。いつもと違う状況の時は興奮し、走り回ることが多いです。
- (1) 家庭において本児との関りが母親からの話ではみえてこない。母はコミュニケーションが苦手なようで、特定の保育者との信頼関係を築けるよう配慮している。
- (2) 全体での指示が伝わりにくい。個別で伝える際は言葉だけで話すよりも絵カードを使った方が理解できる。興奮すると手をひらひらする。バイバイする時手のひらを自分の方に向けて手を振る。
- (2) 1歳クラスから入園する。昨年は本児の姿を伝えたり様子を聞かれたりすると、避けるような所があり、保護者との関係を築きにくかった。今年度になって母から姿を聞かれたり、めだか教室にも積極的に行ってくれるようになり、本児の様子から何か手だてはないか考えようとされている感じになってきている。
- (2) 言語面で自発的にコミュニケーションをとろうとするが、はっきりとした言葉での発語は少ない。見通しをもって行動することが難しく身の回りのことも気分が乗らなければ大泣きして保護者の援助を必要とする場面が多い。じっと座ることが難しく、静かにするときもつい声を出してしまう。友達に顔を近づき相手が嫌がることをしてしまったり相手にぶつかりに行くことがある。
- (2) 友達との関わりや興味を持つ遊びが少ない。壁やロッカー、窓を舐めようとする。泣く、笑うことはあるが、表情が乏しく、痛いなどを表現することが難しい。保育教諭のひざにもたれ、スキンシップを好む。
- (2) 少しずつ言葉は出てきているが、目や手を離すことができず、常に支援が必要である。療育に通うことに保護者はあまり前向きではない。
- (2) 事業所に通い始めてから、落ち着いて過ごすようになった。
- (2) 母親の負担が大きいと話の中で感じる。例 寝かしつけは必ず母を求めると母の休まる時間が少ない。父が寝かしつけをすると逆に「違う」と暴れてしまうそうだ。
- (3) もず園や母子センターに行った時は、その都度どんなことをしてきたのか、園でしたほうがいいのかはあるかなどを確認している。夜中のうなりがひどいので、午睡の時間を1時間半に調整し、夜ぐっすり眠れるようにとはかっている。
- (3) 本治が興味がないものや活動では集団での活動が難しい面があるが、少しずつ他児と一緒にできることが増えてきている。言語面では、ほとんどオウム返しだが、簡単な2語文で職級を伝えることができる。一日の流れが身に付き気分によってはあるが、朝の準備や着脱などに意欲的に取り組んでいる。
- (3) 2語文での表現が多く、話しかけへの理解が乏しい面が見られる。集団行動やコミュニケーションが苦手で、暴力的になる場面がある。保護者自身子育てに困難さを感じている。

(3)	思い通りにいかない嫌な気持ちを全て激しい奇声で表現する。一日に何度も部屋から出ていき、他のクラスに行く。集団での活動に参加することが難しく、常に保育者の声掛けや援助が必要。奇声でクラス全体が落ち着かず困っています。並行通園の面接を受けています。
(3)	保健センターでもず園をすすめるが、遠方であるため通所できない。3才半検診でとりくめない項目があり、親も心配している。トイレに行くと自分のクラスがわからず戻れなかったり、担任のこともわからず「この人だれ？」と聞いても「…誰？」と不思議そうな表情をしている。
(3)	日々の気になる姿や成長が見られた姿については、個人ノートに記録しています。保護者とは個人懇談(年2回)、巡回前後、行事前後に話をする機会を設け、園と家庭との様子を共有したり、関わりについて伝えていきます。送迎時の会話も積み重ね、4・5才児相談に繋げたり、保健センターのフォローのもと、療育の話を進めていく予定です。
(3)	進行性の難病で歩行が不安定なため、ほとんど一対一で傍につけている。4月入園で装具を着用していたが、リハビリの先生と話し合い、インソール入りの本治専用の靴を作成し、園でも11月より使用。
(3)	母(うつ病)の精神面が不安定で、関係機関と連携をはかっている。本児は表情が固く感じられたが、少しずつ笑顔を見せるようになった。時々保育者の話が理解できていないようであるが、周りの友達をみて活動に参加できている。母子ともに送迎時、表情・様子を確認し声を掛けるなど見守っている。
(4)	他児が嫌がることをし、反応を見て喜んでいる様子がうかがえる。また、注意をしても理解できていないのかニヤニヤ笑うことが多い。状況と表情が伴わないことが多い。
(4)	本児が通所している療育施設2ヶ所と半年に一度、円と療育施設での様子を電話で伝えあっている。してはいけないことをふざけてしまい、注意されたらしてはいけないことと分かっているが、注意されているということが分からず、ふざけて真剣に受け止めることが難しい。
(4)	昨年もず園に通院したことで、友達とのコミュニケーションのとり方や集団の中にも上手く入っていけるようになり、現在では大きな心配は見受けられなくなった。
(4)	友達との距離感が分からなく近すぎて友達が嫌な思いをしている。友達の嫌なことをわざとして反応を見て楽しんで。「やめて」と言われてもやめることができない。駄目の理由が難しく、相手の表情や気持ちを読み取ることが難しい。通りすがりで友達を叩く、触る。力が強くなってきているのでやめさせたい。
(5)	母子分離が苦手な為、保護者が来園する行事では泣く事があったが、年長になり色々な行事に楽しんで参加出来るようになり、また運動会では母親の姿を見ても泣く事なく取り組めた事が大きな自信となり、保護者の姿を見ても泣かずに取り組めるようになってきている。
(5)	連携機関がも訪問してくれたり、父母ともに毎日会って話せているので今のところ困ることなし。本児に対して今できる対応を提供できていると感じている。
(5)	友達との関わりの中でトラブルもあるが、自分の思いを相手に伝えたり、相手の話を聞こうとする姿勢も見られるようになってきている。活動中に周囲の友達から遅れてしまうこともあるが、友達の様子を見て急ぐようになる。
(5)	全体的に発達遅滞があるが、何事にも興味を持ち、意欲的に参加できる。保育者の援助が必要。4月に比べ、言葉数も理解力も増え、交友関係も広がってきつつあるが、長文を話すと聞き取れないことが多いので、相手に思いが伝わらずトラブルになることがある。
【幼稚園】	
(2)	衝動的・多動な所が見られ、部屋を走り回ったり、友だちにぶつかったり、危険な所がみられる。切りかえが難しく、遊びを止められると奇声をあげる。めだか教室担当の先生と連絡をとり、気になることや困ったことがあればアドバイスをもらっている。
(2)	食事の時間は必ず保育者が1人付きっきりで介助している。離乳食の提供をしている。

(3)	集中が散漫になりやすく、様々なことにおいてやり遂げることが難しい。活動ごとの切り替えに時間がかかる。母親との分離不安が強い。
(3)	言葉を話せないためコミュニケーションをとることが難しい。保護者に療育機関を紹介しているが、保護者の心に余裕がなく、支援につなげることが難しい状態。
(3)	保護者の理解が十分にあり、子どもの様子を園と共有できておりますが、発達検査は今のところまだ受けていない状況です。本児の表情や行動から、その都度気持ちを確認、代弁しながら、友だちとのかかわりがもてるよう支援をしています。
(3)	言葉はすべてオウム返し。自由遊びの時は保育者が声を掛けるまで自分のロッカーでじっとしており、遊ぼうとしない。遊びたいという様子もなし。行動も全て真似をするので、何かを選んだり、製作・描画も自分でするのは難しい。
(3)	本児は穏やかな性格であるが、一日のうち気持ちの変動が大きく、またくり返されるため、場面によっては活動をする時としない時の差が表れることがあります。そのため本児の心の揺れに対する支援が必要です。
(3)	入園当初と比べるとすごく成長しています。まだお話をする時に何を伝えたいのか言葉にならない擬音で話すことがあります。お友だちの真似をすることが多く見られるようになりました。色々なものに興味を持ち、じっと出来ない時があります。また歩行に関しては飛び跳ねるようにして歩くのが少し気になります。
(3)	入園した頃はオムツで、トイレでの排泄ができなかった。パンツを嫌がり投げていたが、トレーニングし幼稚園ではパンツをはくようになりトイレも自ら行けるようになった。家ではオムツをはいている。最近では家でもパンツをはく回数を増やしている。言葉がまだはっきり出ない。入園当初は「あーうー」と意思表示し12月現在では一語文で話すことができるが、自分の気持ちを文章で話せないので指をさして訴えてくる。母も話せないことを気にして家でも練習している。幼稚園では自分の思い通りにならないと泣き叫び落ちつきに時間要。
(4)	集団活動に参加しづらい。個別の声掛けが必要。保護者が集団生活の上での本児の困りについて認められない面がある。
(4)	トイレトレーニング中です。保護者の方も「言いすぎるとイヤがる」と言っていて、なかなか進まないようです。見たものを言葉で伝えられるようになったり、言葉をたくさん話せるようになったのが嬉しいようで、場面を問わず話し始めます。
(4)	食具を使つての食事が困難。注視ができない。排泄がトイレでできない。
(4)	当該園児はその状況から発達障害があると推測されるが、3才児はこのようなものとして(今の状況)とらえていて、2学期に入り、参観等で子どもの様子から、ようやく気になりはじめ、また、教員からの様子を聞く等から、12月中旬に東区役所にて相談(健診)を受けることになった。<親の意思により>
(5)	一斉活動において保護者の話の中の興味を持った言葉の一部に気がそれてしまい、必要な指示を聞きもらしてしまったり、行動が遅れてしまったりすることがたびたびみられる。状況に合わない笑顔などもみられるため、友だちとうまくコミュニケーションをとることができないこともある。
(5)	保護者の本児特性の認識はできつつありますが、完全な受容までではなく、今年度の発達検査は受けておりません。就学先の小学校への声かけは、保護者自らが行っており、不安を感じている面もある様子です。
(5)	言葉でやりとりできます。納得することが大事なようです。友だちの気持ちを汲むことは少し難しく、手はまだ少し出ます。声掛け、整理整頓などの支援を要します。じっとすることは興味があればできますが、なければ集中はすぐ切れます。手先は不器用ですが作ることは好きです。ゲームが好きでホラー、マイクラフトが好きです。よく喋り、よく笑うので愛されキャラです。
(5)	集団活動への参加が難しく、自分のしたい活動の時のみ輪の中に入るが順番、指示に応じることは少ない。自分の要求が通らないと大声で叫んだり友達をたたいたりする。
(5)	手、腕の力が少し弱い。給食ではお箸ではなく、フォーク・スプーンで食べている。3学期からは園、家庭、連携先機関で力をつけながら、お箸を使えるよう指導していきたい。

- (5) 自分の感情を伝えられるようになってきた。現在トイレトレーニングを行っている。自らトイレに向かえるよう声掛けしています。

【保健センター】

- (0) 医療ケアが必要で訪看などにつなげたいが、なかなかつながらず。連絡もつきにくいので、状況把握しにくい。
- (2) 母のこだわりが強く、育児面でもフォローしているケースです。
- R2.8月退院するも、9月に訪看利用中の事故・過失により一時心肺停止。以降は大阪母子医療センターに長期
- (3) 入院中で施設入所を勧められている。母は事件を受け入れられず、面会にも行かず。病院や弁護士とのやりとりは父。

【児童発達支援事業所】

- (0) 通うのが大変そうだが、様々な人に助けってもらって通ってくれている
- (3) 保護者がこの児童をみられない(注入の方法など病院や他職種の方が関わってもダメだった)。児童を守るため保護者から離すように現在動いているが、詳しい情報が入って来ず。
- (5) 本人からの要求等が言葉でなく、手を引っぱって呼ぶことがあります。これから小学校に進級するにあたってコミュニケーションの手段を習得していくことが今後の課題であり、学校との連携が大事になる。
- (5) 母子家庭で保護者1人の負担が多く疲れておられ、質問したことへの返答が遅かったり、関係性づくりに苦労している。

【子ども相談所】

- (3) 発語はあり。知的にしっかりしていることから、行き先が限られ、どこにも行きたくないとなってしまうのかなと思います。